［年度］令和４年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

［成果情報名］イチゴ新品種‘紀の香’の優良苗生産技術の開発

［担当機関名］農業試験場栽培部　　［連絡先］0736-64-2300

［専門分野］野菜　　［分類］普及

［背景・ねらい］

‘紀の香’の特性として、炭疽病に強く、早生で多収、高糖度・高酸度で良食味であることが挙げられます。しかし、育苗時の問題点として、ランナー発生数がやや少ない、ランナーの先枯れ発生、育苗後半の不時出蕾やランナー切り離し後の枯死子株の多発があります。これらの問題により、優良苗率は６割ほどと低く、苗の確保が難しくなっています。

そこで、効率的な苗生産のため、親株および子株の育苗期における適正な管理技術の開発に取り組みました。

［研究の成果］

１．親株の施肥は、基肥の窒素量が少ないほどランナー発生数が少なく、多いほど先枯れ発生数が多くなったことから、基肥に緩効性肥料をＮ３ｇ／株、追肥に緩効性肥料をＮ0.3ｇ／株の施肥で採苗数を多く確保できます（図１）。

２．ポット受け頻度を増やすことで、先枯れ発生数が減少します（図２）。

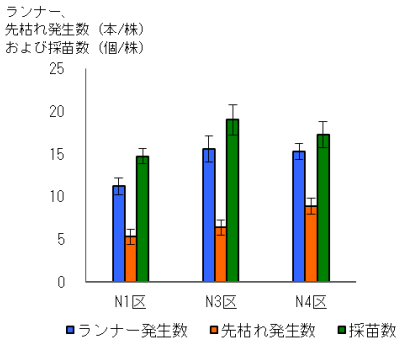

図１　親株における基肥の窒素量がランナー発生数に及ぼす影響

※エラーバーは標準偏差、n=9 株×2 反復
基肥：エコロング 424-100 を各区の量で令和 3 年 3 月 25 日に施用
追肥：いずれの区も IBS1 を令和 3 年 6 月 2 日に窒素量 0.3g/株施用
調査日：7 月 19 日、エフクリーンハウス内にて遮光なしで栽培

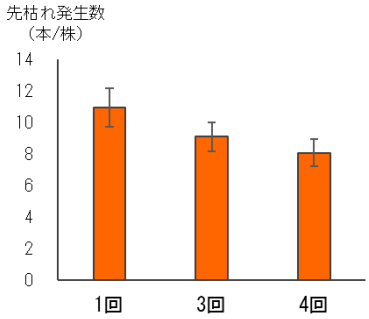

図２　ポット受け回数がランナー先枯れ発生に及ぼす影響

※エラーバーは標準偏差、n=9 株×2 反復
①「受け 1 回区」：6 月 2 日
②「受け3回区」：6月2日、6月14日、8月25日
③「受け4回区」：6月2日、6月14日、6月25日、7月7日
調査日：7 月 19 日、エフクリーンハウス内にて遮光なしで栽培

３．親株の葉数は、16 枚以上でランナーの発生数および採苗数が多くなります（表１）。

４．ハウス外張り資材の遮光率と合わせて 50%程度の遮光を行うことで、ランナーの先枯れを抑制できます。ただし、長期の遮光でランナー発生数が減少するため、遮光の開始は６月中旬からとします（表２）。

表１　親株の葉数がランナー発生数、先枯れ発生数および採苗数に及ぼす影響

親株葉数	ランナー発生数（本/株）	先枯れ発生数（本/株）	採苗数[z]（株）
8枚	22.2	2.8	10.3
12枚	25.2	3.4	11.5
16枚	28.3	2.6	12.8
摘葉なし	28.6	3.7	13.2

n=18 株、反復なし、苗受け開始日：6 月 14 日
[z]：親株 1 株あたりの子株採苗数
調査日:7 月 12 日、6 月 1 日からクールホワイト（SW620、遮光率 50%）を展張

表２　遮光がランナー発生数、先枯れ発生数および採苗数に及ぼす影響

遮光処理 期間	遮光率	ランナー発生数（本/株）	先枯れ発生数（本/株）	採苗数[z]（株）
長期遮光 6/1～	30%	20.2	2.4	9.1
	50%	18.1	2.5	8.4
	70%	18.4	2.7	8.7
短期遮光 6/15～	30%	32.0	3.6	11.4
	50%	28.0	3.0	9.5
	70%	26.1	3.3	9.3
無処理区		28.3	4.1	8.2

※n=18 株、反復なし
[z]：親株１株あたりの子株採苗数
PO フィルム（遮光率 15%）で被覆した簡易雨よけ施設で栽培
遮光資材：クールホワイト 30%：SW420、50%:SW620、70%：SW1020

５．６月中旬までにポット受けした子株は、不時出蕾の発生が多くなるため、５月中旬までに発生するランナーは除去し、苗のポット受けは６月下旬以降とします（図３）。

６．ランナー切り離し後、ハウス外張り資材の遮光率と合わせて 50%以上の遮光下で管理することで子株の枯死を軽減できます（図４）。

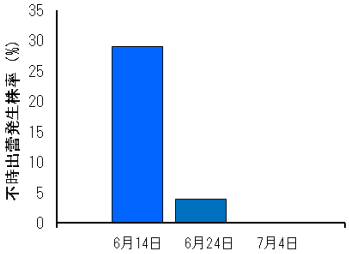

図３　採苗時期が不時出蕾株の発生に及ぼす影響
※調査日：９月８日、n=100

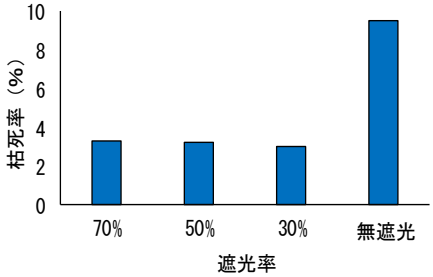

図４　異なる遮光率がランナー切り離し後の子株の枯死に及ぼす影響　n=50
※PO フィルム（遮光率 15%）で被覆した簡易雨よけ施設で栽培
遮光資材：クールホワイト　30%：SW420、50%:SW620、70%：SW1020

［成果のポイントと活用］

１．親株は多めに用意し、基肥に緩効性肥料をＮ３ｇ／株、追肥に緩効性肥料をＮ0.3ｇ／株を施用して、葉数16枚以上で管理することで子株が多く採れます。また、苗のポット受けは６月下旬以降にスタートし、こまめに苗を受けることで、ランナー先枯れおよび不時出蕾の発生が軽減できます。

２．６月中旬から育苗終了（切り離し後の子株の管理時期を含む）まで、ハウスの外張り資材の遮光率と合わせて50%程度の遮光をし、こまめな葉かきを行うことで安定して優良苗生産ができます。

３．不時出蕾しても芯止まりでない株はそのまま栽培することができます。

４．‘紀の香’の栽培マニュアル「特性と栽培のポイント（改訂版）」を、ホームページに掲載しています。
https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/shikenkenkyuuseika/shikenkenkyuuseika.html

［その他］

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業）　　研究期間：令和２～４年

研究担当者：田中郁、嶋本旭寿

発表論文等：なし

ホームページ掲載の可否：可